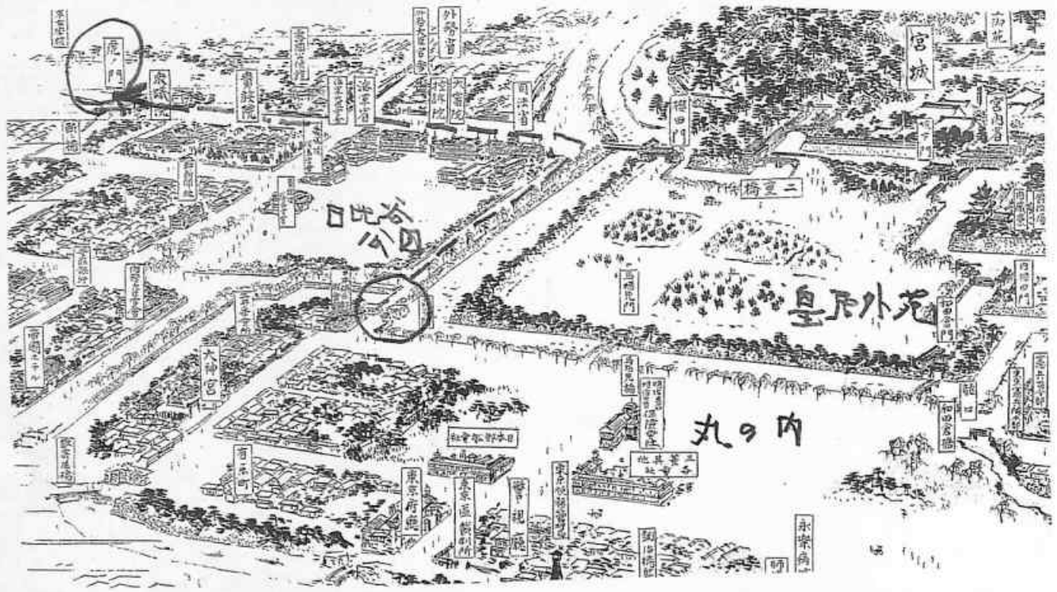
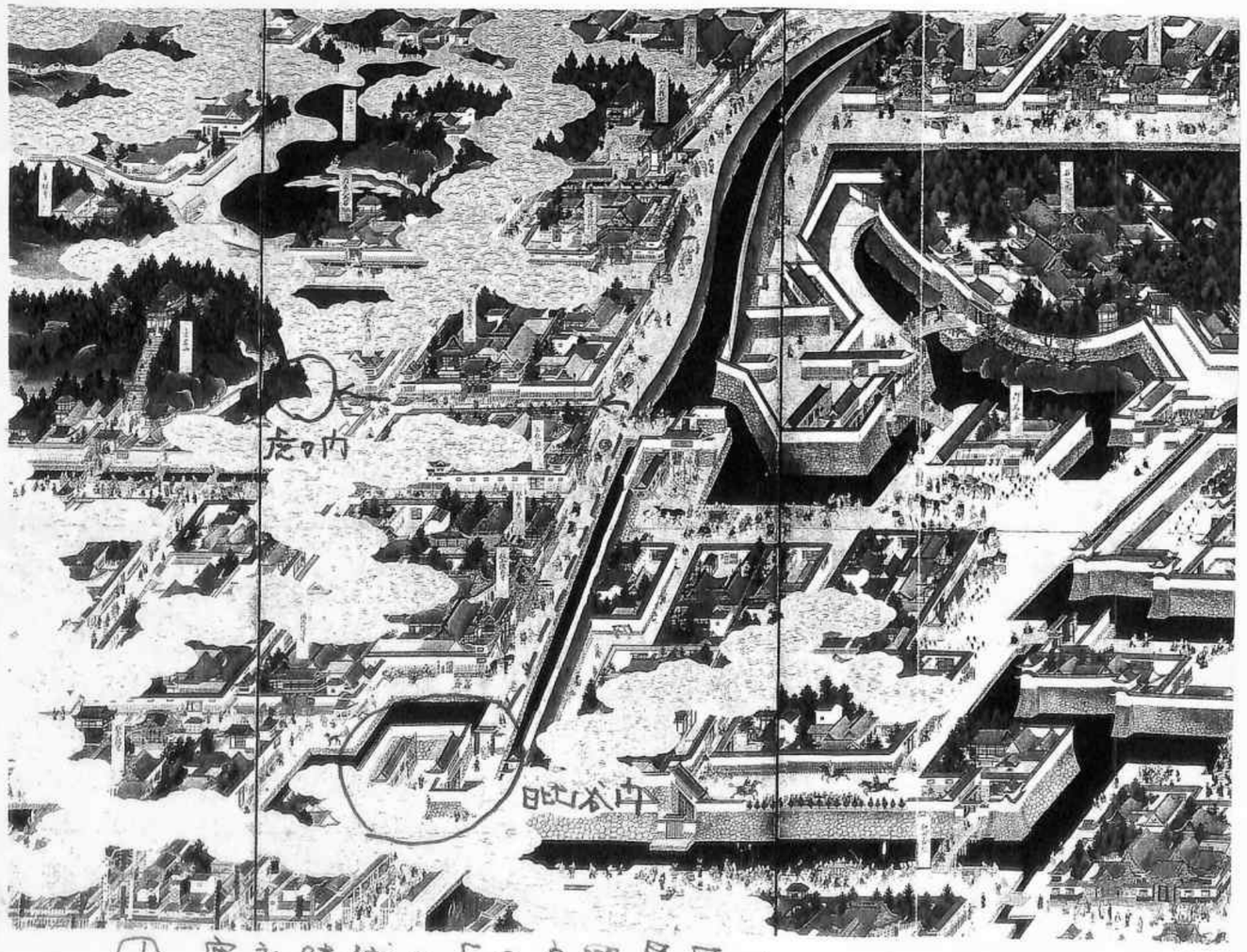
江戸城57ヶ門と3つの橋と重要屋敷 ② 日比谷門～虎ノ門

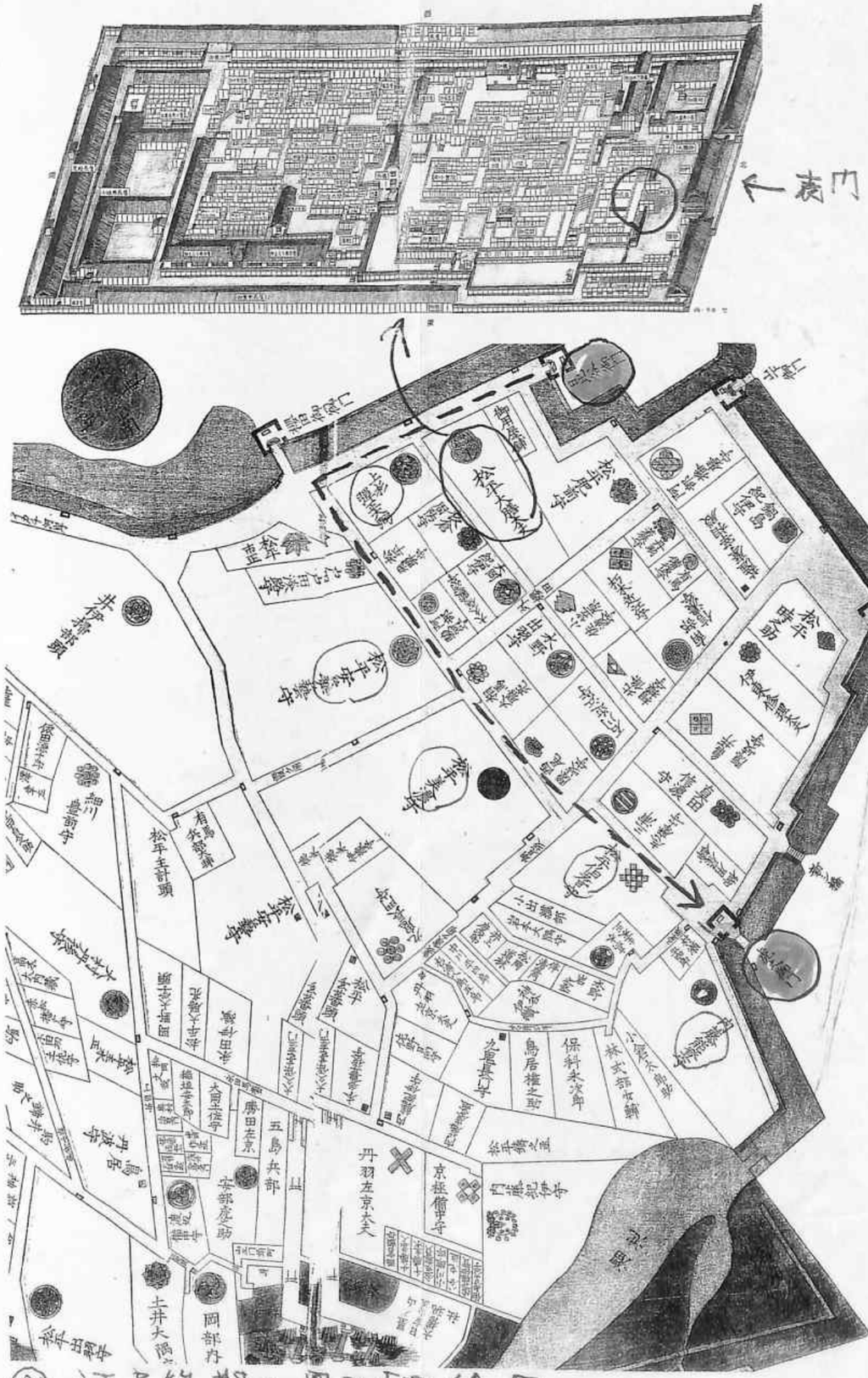
平成19－6－13



← ③ 明治後期の周辺図



① 寛永時代の「江戸図屏風」



② 江戸後期の周辺「切絵図」

城を歩く会６月の定例会　「江戸城の５つの門と３つの櫓と重臣屋敷」ご案内資料②

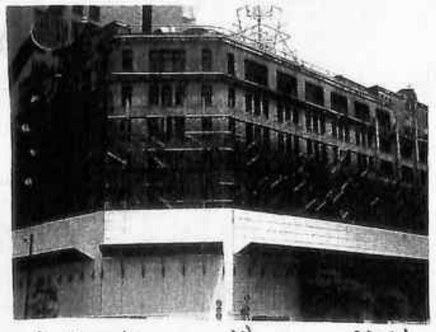
＜日時＞　平成１９年６月１３日（木曜日）

＜集合＞　江戸城大手門前１０時
＜主要行程＞　大手門、辰巳櫓、富士見櫓、内桜田門、坂下門、二重橋、外桜田門＝大森会長担当
日比谷公園昼食、午後の部スタート（有楽門＝日比谷交差点側集合）
日比谷門跡、伊達政宗邸跡、びくに屋敷跡、毛利萩藩邸跡、上杉米沢藩邸跡、
赤レンガ法務資料室、合同庁舎２、３（浅野広島藩邸跡）、外務省（黒田福岡藩邸跡）
財務省（松平宮津藩邸跡）、文部科学省（内藤延岡藩邸跡）、虎の門跡
＜解散＞　メトロ日比谷線、銀座線虎の門駅１６時３０分

山岸弘明

1）　**はじめに ―― 永田町、霞が関一帯の官庁街は旧江戸城外郭**
① 午後は日比谷公園からメトロ虎の門駅までおよそ２㎞ほどを歩く。
桜田郷＝平安朝時代からの地名で桜樹が多い
日比谷＝江戸湾の砂浜に魚を捕るヒビを立てた
霞が関＝日本武尊がエゾ征伐の時関を築いたが大和から霞を隔てた
虎の門＝四神思想による右白虎に相当する門
② 江戸はじめの外様雄藩屋敷跡、伊達政宗、加藤清正、毛利秀就、上杉景勝、黒田長政、浅野幸長ら豊臣時代から関が原の合戦に掛けて活躍した有名武将邸が軒を連ねた。
当時は桜田門もない。油断のならない外様大名を本丸から遠い外郭低地に集めた、ともいえる。
③ 昼食休憩後有楽門に集合、変わりゆく有楽町を遠望。昔懐かしい三信ビルの取り壊しもはじまる。

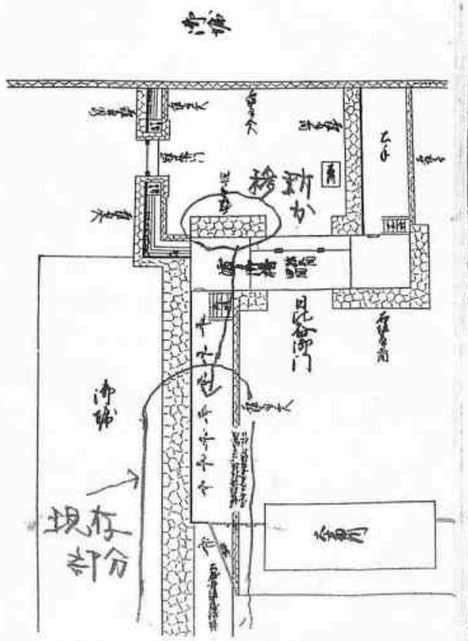
2）　**石垣にも登れる日比谷御門旧跡（日比谷公園）**
① 日比谷御門＝江戸城丸の内と桜田地区を結ぶ外郭門。
慶長８年日比谷埋め立て時土橋を、寛永４年の江戸城工事で浅野長あきらが石垣、６年伊達政宗が升形門とした。
② 日比谷公園側から土橋、高麗門、升形、右折れ、櫓門、大番所
③ 明け６つ（６時ころ）開門、暮れ６つ（18時ころ）閉門、２、３万石クラス譜代大名か大身旗本が鉄砲10、持筒20丁などを常備して警固。万延元年井伊直弼が桜田門に倒れた時直弼の首級を保持した有村次郎左衛門がやすやすと通り抜けている。当時、警備が形骸化していたことが分かる。
④ 渡櫓門は明治６年、升形は36年撤去。周辺石垣と水濠の一部が現存、一周して詳しく観察。
升形跡、周辺石垣（荒あらしい打ち込みハギ）、心字池、算木組と刻印、石垣天端、巨木跡



↑なつかしい三信ビルの解体工事が始まっている

↓日比谷御門の古写真

→日比谷御門



日比谷御門絵図

3）　**豪壮華麗、家康、秀忠、家光３将軍が御成りした伊達政宗邸跡（日比谷公園）**
① 慶長６～７年にかけて外様諸大名は、徳川家に２心ないことを証明するため競って人質を差し出した。
家康は歓迎して邸地を与え、大名たちは整地して豪華な大名屋敷を造った。
② 伊達家の江戸屋敷は通説慶長６年だが、『寛政譜』は５年の関が原合戦前としている。
③ 有力諸大名邸はそれぞれ絢爛の美を競ったが、中でも際立って豪華だったのが伊達邸だったという。
寛永ころとされる「江戸図屏風絵」によれば、周囲を石垣、白壁が囲み、四隅に隅やぐらを上げる。
主人専用の２階建て櫓門のほか将軍の御成りに備えた金箔の御成り門、御成り御殿などがみえる。
慶長６年、12年、元和元年、寛永12年に焼失、地震倒壊、都度建て直した。
④ 徳川家とは昵懇、家康は慶長５年と８年、秀忠は12年、家光は寛永元年以降御成りを繰り返した。
⑤ ３代綱村の時、伊達騒動、明暦大火後の万治４年に屋敷替えとなった。

4）　**将軍側室たちが余生を送ったびくに屋敷（日比谷公園）**
① 伊達邸は江戸中期の万治４年から宝永元年まで甲府徳川家25万石上屋敷に成る。
３代将軍家綱２男。４代家綱の弟、５代綱吉の兄にあたる綱重とその子綱豊の２代で、綱豊は後に綱吉を後継、６代将軍家宣となった。
② 甲府家は家宣の将軍就任で絶家。跡地は将軍家別邸となり、先代将軍の側室たちの余生の地と変わる。
当初桜田御殿で、火災焼失、縮小などで後期は桜田御用屋敷、桜田びくに屋敷と呼ばれた。
③ びくには将軍後家のこと。代変わりとともに新将軍に大奥を明け渡し、側室たちの余生はびくに屋敷に移される。故将軍の冥福を祈る読経三昧の生活に変わる。
④ ９代将軍家重の寵愛を受けて２男清水重好の生母となったお遊喜の方は御用屋敷内に御殿を新築して移転。11代将軍家斉時代の田沼派大奥老女高丘の老後もこの桜田御用屋敷であった。松平定信の寛政の改革に反対、大奥を結集して抵抗した。
⑤ 桜田御用屋敷の隣に御庭番長屋もあった。将軍直属の情報収集機関で全国に出張して諸大名の秘密事項を探ったりもした。びくにたちの日常生活監視も大切な任務だった。

5）　**明治生まれのバンガロー建築、いま結婚式も（日比谷公園）**
① 明治43年東京市技師福田重義設計の都有形文化財
② 日本最初のバンガロー建築、当時としては斬新、無料だが立ち入らない。

6）　**関が原の恨みを倒幕に繋げた毛利家上屋敷（日比谷公園）**
① 日比谷公園の西角、テニスコート、日本公園は毛利長州上屋敷跡
② 豊臣秀吉の５大老であった毛利輝元は関が原の戦いが始まると西軍総大将として大坂城に入った。
しかし家康の裏工作に応じて一戦を交えることなく退去、領国安堵を期待したが、家康の処置は旧領８か国の内６か国の没収だった。周防、長門36万石、萩を居城とした。以降一度の国替えもなく在封、幕末雄藩として力をつけた13代敬親は関が原の恨みをこめて徳川倒幕の原動力となった。

伊達政宗

→バンガロー建築

↑伊達邸跡　↓毛利邸跡　↘祝日交差点　桜田通り↘

③ 慶長８年拝領、ただちに仮屋敷を造営して２代秀就が移り住んだ。４年後の慶長12年本格殿を完成するが、元和元年、７年、明暦３年など６度も焼失した。最終敷地面積は17,170坪。

④ 豪壮を究めた初期の藩邸は「江戸図屏風」に、後期は詳細図が現存する。
江戸後期復元図をみるとまん中の仕切り塀から北側が表で役所向き、南側は藩主夫人ら居室、男子禁制で藩主が生活する御座の間と廊下で繋がった。

⑤ 長州藩邸は新し橋、麻布の中屋敷（予備屋敷）、麻布の下屋敷（別荘）のほか蔵屋敷、町屋敷、抱え地など常時10か所ほどを所有した。

⑥ 元治元年、第２次長州征伐に先だって幕府は長州藩邸を没収、藩邸は取り壊して江戸市中の銭湯に薪材として分配された。明治維新後陸軍日比谷練兵場、明治36年に日比谷公園となった。

7） 謙信以来の名門・上杉米沢藩上屋敷跡（法務省＝霞が関１丁目）

① 戦国時代の名将・上杉謙信の２代景勝以降歴代の江戸上屋敷。
景勝は会津120万石、秀吉５大老として重きをなしたが、関が原の合戦で西軍に属したため米沢30万石に移された。江戸中期には３代綱勝の急逝で改易の危機を瀕したが吉良上野介の長男綱憲を養子として15万石への減封に止めた。このことで元禄の「赤穂事件」にもかかわる。後期は財政難で９代藩主の治憲（鷹山）が藩政改革を進めた。

② 慶長８年拝領、敷地の増減はなく7,432坪で明治維新に及んだ。

③ 維新後、陸軍日比谷練兵場をへて法務省に。

8） 赤レンガ棟の法務史料展示室を団体参観（法務省）

① 明治19年、政府は近代国家としての体裁を整えるため、それまで皇居（旧江戸城）周辺に分散していた諸官庁を霞が関、永田町へ集結させることを決める。

② ドイツの世界的建築家エンデとベッグマンを招聘、幾度かの試案をへて司法省と大審院などが赤レンガで完成、周辺に　　洋館の外務省、文部省、内務省、帝国議事堂、枢密院、陸軍省、参謀本部、警視庁などが立ち並んだ。

③ 法務省赤レンガ棟は７年の歳月をかけた明治28年竣工、設計はエンデだが工事開始前に解約、以後日本技師の河合浩蔵が担当した。エンデ案の４階は３階に、東側中庭付き部分を取り止めるなど大幅に縮小された。大正12年の関東大震災にも耐えたが、昭和20年の東京大空襲で全焼、壁とレンガ床だけが残った。昭和26年、平成６年と復元工事、現在は建設当時の姿を再現している。国内に現存するレンガ造り建造物の中でもとくに貴重として国の重要文化財に指定されている。

④ 壁面は赤レンガと白花崗岩のツートンカラー、屋根は緑でスレート葺き、尖塔と屋根飾りが明治の薫りを伝える。正面２つの玄関は当初の庁舎、大臣官舎同居のなごり。

⑤ 内部の一部を公開、団体入場。14時から40分程度、担当係員にご案内をお願いしました。
団体予約、案内窓口03-3592-7911村田様

↓赤レンガ棟 東西

↑法務省正門

史料展示室内部

9） 福島正則の広島城を引き継いだ浅野本家（合同庁舎２、３＝霞が関２丁目）

① 法務省の斜め前、総務省などの入る合同庁舎２、３は浅野広島藩上屋敷跡である。

② 秀吉の姻戚として重用された浅野長政の子幸長が関が原の合戦で徳川方に付いて和歌山城主となり、次の長あきらが改易された福島正則跡の広島城42万石に入った。

③ 慶長10年拝領、文政８年添地２千坪、最終敷地面積は13,681坪。

１０）「黒田騒動」の福岡藩邸はいま外務省に（外務省＝霞が関２丁目）

① 外務省と国会議事堂前庭南半分は福岡52万石の黒田藩上屋敷であった。
黒田家は如水（孝高）の子長政が関が原の戦功で福岡52万石を領したのにはじまる。
２代忠之の時「黒田騒動」、また島原の乱の出兵で財政悪化、享保の大飢饉で領民の３分の１を死亡させた。明治維新は藩内抗争で勤皇派が粛清され活躍の場がなかった。

② 拝領年月不詳、慶長10年ころか、最終敷地面積は21,161坪。

１１）譜代歴戦の勇将・内藤家長は外郭南の要を守る（大蔵省＝霞が関３丁目）

① 大蔵省は宮津松平家７万石上屋敷ほか

② 文部科学省とその別館、高層の霞が関ビル一画は内藤延岡藩邸跡であった。
内藤家は家長が家康の旗本、強弓歴戦で武功を立てた。上総佐貫、磐城平をへて延岡７万石。

③ 天正18年、家康の江戸入りにしたがった家長拝領。家伝は「入国のみぎり御かごを留められ、御杖先をもってその境を御書き遊ばされ候を家長へ下し置かれ候」とする。最終敷地面積10,515坪。

④ 文部科学省別館前に虎の門石垣遺跡が現存もたが、再開発工事が始まったので立ち入りはできない。

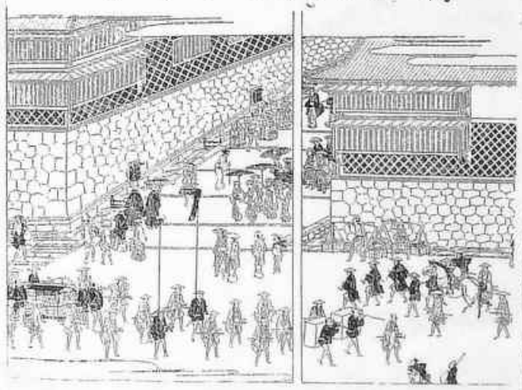
１２）虎の門跡示す白虎石像が旧跡を見据える（虎ノ門１丁目）

① 工事中の文部科学省前の道路まん中あたりに虎の門があった。江戸城主要外郭門の１つで、
江戸はじめ寛永13年升形門を建造、はじめ櫓門だが後期は冠木門、内升形左折れ、明治６年撤去。

② 虎の門碑がひっそりとたたずむ。
道路側が正面で「虎門遺跡、昭和二十七年九月建之、虎ノ門会」
歩道側裏面は「この地は往昔の虎の門の旧跡なり。すなわち慶長？年間、江戸城増築のみぎりの内外廓（郭）三十六門の１つにして……」

③ いまの外堀通りのやや内側に外濠がめぐり、この先虎の門３丁目は城外、かつて中小大名邸、旗本屋敷が続いた。

④ メトロ虎の門駅付近で解散。ＪＲは新橋駅が近い。

黒田福岡藩邸跡

↑松平邸跡 ↓かすみが関 ↓再開発工事 ↑虎の門 ↓虎の門碑